

薬剤部だより No.205

山口大学病院薬剤部 2007.2.15



抗血小板薬・抗凝血薬などの術前中止時期について

抗血小板薬・抗凝血薬などは薬剤の性質上、手術に際して早めに投与を中止する必要があります。薬剤によって、また外科的侵襲の大きさによって中止時期が変わることもあります。以下を参照して手術にのぞんでください。

分類	商品名	一般名	術前中止時期
血小板凝集抑制薬	バイアスピリン	アスピリン	7～10日前
	アンブラーグ	塩酸サルボグレラート	1日前
	エパデールS	イコサペント酸エチル	7～10日前
	パナルジン	塩酸チクロピジン	10～14日前
	プレタール	シロスタゾール	2日前
	プラビックス	硫酸クロピドグレル	14日以上前
末梢血管拡張・循環改善薬	プロサイリン	ベラプロストナトリウム	1日前
	プロレナール	リマプロストアルファデクス	1日前
抗炎症薬	バファリン 330	アスピリン	7～10日前
	アスピリン		7～10日前
虚血性心疾患治療薬	ペルサンチン	ジピリダモール	規制無し
	ペルサンチンL		規制無し
	アンギナール		規制無し
抗凝血薬	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	30～60分前
	ワーファリン	ワルファリンカリウム	小手術: 4～5日前 大手術: 5日前
脳機能・代謝調整剤	ケタス	イブジラスト	3日前
骨粗鬆症治療薬	エピスタ	塩酸ラロキシフェン	長期不動状態(術後等)に入る3日前 (完全に歩行可能になるまで中止)

フィルデシン調製時の注意事項

注射用フィルデシンの輸入先がイーライリリー社からファーマケミー社へ変更になりました。それに伴い、個装箱のデザイン・形態、バイアルサイズ、ゴム栓の形状などが変更されました。ファーマケミー社品は薬剤の暴露防止のためにバイアル内の減圧度が高くなっていますので、従来品に比べ溶解液の抜き取りにやや力が必要となります。また、ゴム栓の形状により溶解液が残るおそれがありますので、バイアルを倒立させ斜めにし、バイアルの肩に溶解液を溜めて抜き取ってください。



ノバスタン HI 注 10mg/2mL は希釈が必要です

薬剤部だより No.203でお知らせしましたように、選択的抗トロンビン剤ノバスタン注(10mg/20mL)の販売が中止となりました。それに伴い、代替品としてノバスタン HI 注(10mg/2mL)が採用となりましたが、現行製剤と濃度・組成が異なりますのでご注意ください。溶血をおこすおそれがありますので原液のままの投与はできません。ノバスタン HI 注は必ず輸液に希釈して点滴静注してください。血液体外循環(血液透析)の用法も異なります。

アルチバ静注用(麻薬)使用にあたって

この度、麻酔科より全身麻酔用鎮痛剤アルチバ静注用(麻薬)の緊急購入の依頼がありました。使用の際には必ず100 µg/mLになるように生食または5%ブドウ糖で希釈してください。また、希釈後は安定性が低下するので24時間以内に使用すること。

貯法変更のお知らせ

今回の薬事委員会で「ヒュメゴン」、「フェルティノームP」がそれぞれ「HMG フジセイヤク 150」、「フォルルモン P75」に切り替わりました。それに伴い、貯法が変更されますのでご注意ください。

ヒュメゴン(室温) HMG フジセイヤク 150(冷所保存)
フェルティノームP(室温) フォルルモン P75(冷所保存)

注射薬返却に関するお願い

最近注射薬の返却の量が増え、返却作業に苦慮しております。大量の返却は不良在庫の原因になりますので退院が決まっている患者の予定注射など、不必要なオーダは前もって削除くださるようお願い致します。

返却された注射薬の中には、開封して使用した後のもの、輸液ボトルにマジックで直接患者名や速度指示が書かれてあるものなども見受けられます。薬剤部では、返却された薬品を注意深く確認して再使用するようにはしていますが、マジックの指示が書かれた状態で病棟に届き、混乱を招くおそれがあります。注射薬返却の際には未使用であることを確認し、マジックを消しておいてください。

春季学生実習9名の応募あり

薬剤部では、薬学部3年次終了(予定)者を対象に、春季学生実習を開始します。

実施期間:平成19年2月26日(月)～平成19年3月23日(金)

医療の担い手として社会に貢献できる薬剤師を目指し、臨床現場を体験しにやってきます。服薬指導などで病棟を訪れる機会もあろうかと思いますが、その節はよろしくお願い致します。